日 本 家 政 学 会

被 服 構 成 学 部 会 誌

第 **29** 号

平成 **20** 年 **3** 月

目　　次

・部会長あいさつ 1
・次期部会長あいさつ 3
・平成 19 年度　被服構成学部会　総会 5
・平成 19 年度　夏期セミナー　「ファッションの魅力」..... 6
講演「アンダーウェアとプロポーション」 7
講演「宝塚歌劇団の舞台衣装のデザイン」 8
事例研究 1「紙衣和紙の研究」 9
事例研究 2「新しい美の創造」 10
見学「神戸ファッション美術館展示室」 11
夏期セミナーに参加して 11
・第 14 回　アジア地区国際家政学会議（ARAHE）マレーシア大会 12
・平成 19 年　度被服構成学部会研究公開講座 13
プログラム 13
・第 8 回　全国中学生創造ものづくり教育フェア報告 14
・研究報告「筋電図による衣服の動作適応性評価に関する研究」 15
・関連学会短信 17
ITAA2007 年次大会 17
日本繊維製品消費科学会 18
日本衣服学会 19
服飾文化学会 19
・平成 19 年度　修士論文テーマ・要旨 20
・会務報告 22
・平成 18 年度　夏期セミナー収支報告 23
・平成 18 年度　収支決算報告 24
・平成 19 年度　予算 25
・永井房子先生のご逝去を悼む 26
・お知らせ 27
・ご案内 28
・被服構成学部会　会則 29
・平成 18･19 年度役員，平成 20・21 年度役員 31
・入会申込書 33

ごあいさつ

（社）日本家政学会被服構成学部会
部会長　猪又　美栄子　（昭和女子大学）

部会員の皆様には，新しい年度に向けて，お忙しくご活躍のことと思います．

前部会長の大村知子先生から部会長を引き継いでから 2 年が過ぎました．この間，運営委員をはじめとする部会員の皆様のご支援とご協力を得て，部会の事業を進めることができましたことを心より感謝申し上げます．ありがとうございました．18 歳人口の減少を受けて教員やスタッフも減少傾向にあり，被服構成学部会を取り巻く環境は依然として厳しい状況でしたが，部会員の皆様の熱意で活発に部会活動を行うことができました．新しい方々が，夏期セミナーや研究例会の実行委員や参加者として入られたことはうれしいことでした．

この 2 年間のセミナーと研究例会は，「部会員が教育，授業に活用できる」ことを考えて，テーマが設定されました．日頃の授業や研究発表はもちろんのことですが，最近では受験生への対応にもプレゼンテーション技術が求められているので，平成 18 年度の夏期セミナー「被服構成学の研究・教育に生かすプレゼンテーション技術 PartⅡ－動画を教材に取り入れようー」では，動画を作成しパワーポイントに取り入れることを学びました．また，被服学領域を学ぶ学生のファッションへの興味と期待は大変大きいものがあり，教員もそれに対応する必要があります．平成 18 年度の研究例会と平成 19 年度の夏期セミナーでは時代と社会を映し出しているファッションを学ぶことにしました．研究例会は「男のおしゃれ」，夏期セミナーは「ファッションの魅力」でした．公開講座は，部会員の研究成果を広く社会に伝える内容としました．「生活を豊かにする衣服－着心地の良い快適な衣服をもとめるために－」，これも教育に活用できる内容が充実しています．

また，平成 15 年 1 月から後援・協賛してきた全国中学生創造ものづくり教育フェアでは，担当の運営委員がつくば市まで出かけて被服製作コンテストの審査に関わり，被服構成学部会奨励賞を授与しました．被服構成学部会のホームページは，平成 18 年度の総会で報告したように，成田基金を使わせていただき，明るい雰囲気にリニューアルされました．

来年は，被服構成学部会が設立されて 30 周年を迎えます．被服構成学部会は昭和 44 年に発足した被服構成学研究委員会が 10 年間の活動の後，昭和 54 年 10 月に第 1 回総会が開かれ設立されたのです．30 周年を機会に，部会員にとってさらに魅力ある組織に発展していくことを願っております．

次期部会長あいさつ

（社）日本家政学会被服構成学部会
次期部会長　　泉　加代子（京都女子大学）

花便りに春を感じるころとなりました．部会員の皆様には，新入生を迎える準備にお忙しいことと存じます．このたび猪又美栄子部会長の後任として，平成20・21年度の被服構成学部会部会長を務めさせていただくことになりました．未熟ではございますが，副部会長の布施谷節子先生，岡部和代先生および19名の運営委員の先生方のご協力を得て運営にあたらせていただきます．部会員の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます．

今年度は部会発足30周年という節目の年にあたります．8月開催の総会と夏期セミナーは，日本女子大学で行います．「工業製品としての衣服―先端研究からアパレルの現場まで―」をテーマに，川上梅実行委員長を中心に実行委員の先生方が準備を進めてくださっています．総会で部会活動の30年を振り返り，そして，セミナーでは今後の被服構成学研究の指針を得るために，アパレル産業界の現状を知り，講演と産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センターの見学から最先端の研究を学んでいただけるように企画されています．実りの多い内容と思いますので多くの部会員の皆様の参加をお待ちしています．また，部会誌第30号は30周年記念特集号になります．部会の歴史をよくご存知の猪又美栄子・雲田直子運営委員に特集号の立案をお願いしています．

平成21年3月には，公開講座「生活の質を高める衣服―健康で自立した高齢期を過ごすために―」を京都で開催します．これは，今年3月に和洋女子大学で開催されました公開講座の成果を引き継ぎ，内容を若干変更したものです．部会員の研究成果を公表し，超高齢社会に衣服が貢献できることを社会に広報することは，被服学の地位向上に結びつきますので,科研費補助金研究成果公開促進費の採択の有無にかかわらず開催する予定です．高齢者や中年世代を主たる対象者としていますが，学生さんや若い世代の方々の参加も大歓迎です．

6年間部会で取り組んできました全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援・協賛も継続して行えるように鳴海多恵子運営委員にお願いしています．

また，今年度は国際家政学会が創立100周年を迎え，記念大会が7月26日～31日にスイスのルツェルンで開催されます．被服構成学部会では，これまでに3回の海外研修旅行を実施しております．次の部会主催の研修旅行を希望される声がありますが,部会独自で実施することは実行委員となられた先生方の大変なご苦労が伴います．そこで，（株）霞ヶ関トラベルにお願いして，国際家政学会終了後のポストコングレスツアーのDコース（チェコ・オーストリア・ハンガリー）を構成学部会員の皆様が研修していただけるコースになるように見学先を考えていただきました．ハンガリーのカロチャ刺繍の工房やチェコビーズ専門店の見学など魅力的な内容になっています．詳細は家政学会誌1月号をご覧下さい．学会参加が日程上無理な方には，7月31日に日本を出発して合流する研修のみのコースも考えていただいていますので奮ってご参加ください．

大学全入時代に突入し，被服学を取り巻く環境だけでなく，大学の運営そのものが厳しい状況となって参りました．暗いニュースが多い中で，世界で初めて人の万能細胞の作製に成功された京都大学の山中伸弥教授が記者会見で，研究の目的は「人の役に立つこと」と一言述べられたのが印象に残っています．「人の役に立つこと」，これこそすべての分野の研究目的の原点ではないでしょうか．私たちが人の役に立つ研究，社会貢献する研究を遂行し，その研究成果を社会に発信し続けることが被服学の生き残りに繋がると思います．共同研究の場，情報交換の場として被服構成学部会を多いに活用していただければと願っています．

平成 19 年度　被服構成学部会　総会

プログラム

日時：平成 19 年 8 月 27 日（月）
会場：神戸ファッション美術館
　平成 19 年度被服構成学部会総会は雲田直子副部会長の司会で，下記のとおり進行した.

1　開会の辞　　泉　加代子
2　部会長挨拶　　猪又美栄子
3　報告
　(1) 平成 18 年度事業報告　　雲田　直子
　(2) 平成 19 年度事業中間報告　　森　　由紀
4　議長選出
5　議事
　(1) 平成 18 年度会計報告　　布施谷節子
　(2) 平成 18 年度会計監査報告　　高部　啓子
　(3) 平成 18 年度夏期セミナー会計報告
　　佐藤眞知子
　(4) 平成 18 年度夏期セミナー会計監査報告
　　石垣　理子
　(5) 平成 19 年度予算（案）　　布施谷節子
　(6) 平成 20 年度事業計画（案）　　森　　由紀
　(7) 次期部会長推薦の件　　猪又美栄子
　(8) 平成 20・21 年度監事推薦の件
　　猪又美栄子
　(9) その他
　　（イ）被服構成学部会運営委員会申し合わせ
　　一部変更について　　猪又美栄子
6　議長解任
7　次期部会長挨拶
8　閉会の辞　　雲田　直子

上記の内容について審議，承認された.

総会風景

百々氏の講演の様子

麗しのロココ衣装展の様子

平成 19 年度被服構成学部会夏期セミナー

「ファッションの魅力」

期日：平成 19 年 8 月 27 日（月），28 日（火）

会場：1 日目　神戸ファッション美術館　(4F　第 1 セミナー室)

2 日目　神戸女子大学教育センター　(5F　特別講義室)

時間	8 月 27 日（月）
12:30	受付開始
13:00 - 13:10	開会の辞
13:10 - 14:40	基調講演 「アンダーウェアと プロポーションの歴史」 神戸ファッション美術館学芸員 百々　徹　氏
14:50 - 15:20	総　会
15:30 - 17:00	神戸ファッション美術館展示室見学 特別展示：　マリー・アントワネット生誕 250 年記念 18 世紀 麗しのロココ衣装展 解説　　百々　徹　氏
18:00 - 20:00	懇親会 ホテルプラザ神戸 18 階　穹（SORA）の間

時間	8 月 28 日（火）
9:30 - 11:00	講　演 「宝塚歌劇団の舞台衣装のデザイン」 宝塚歌劇団衣装デザイナー 任田 幾英　氏
11:10 - 11:50	事例研究 1 「紙衣の研究　-和紙を材料とした衣服制作について-」 大阪樟蔭女子大学　定延 久美子 氏
11:50 - 12:30	事例研究 2 「新しい美の創造 ー芸術が生み出した衣服ー」 滋賀県立大学　森下 あおい 氏
12:30 - 12:40	閉会の辞
12:40 - 13:20	昼食休憩
13:20 - 16:00	見学会　①ハヤシ・サリー ②北野クラブ　ソラ ③クチュール・ナオコ

神戸ファッション美術館：〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中 2-9-1　TEL 078-858-0050
http://www.fashionmuseum.or.jp/src/museum.php

ホテルプラザ神戸　：〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中 2-9-1（六甲アイランド内）TEL 078-846-5400
http://www.hotelplazakobe.co.jp

神戸女子大学教育センター：〒650-0004　神戸市中央区山手通 2 丁目 23-1　TEL 078-231-1001
http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/institute/access.html#menu10d

(見学会) ハヤシ・サリー　：〒650-0004 神戸市中央区中山手 2-15-13　TEL 078-221-2989
北野クラブ　ソラ　：〒650-0004 神戸市中央区北野 1-5-4　TEL 078-222-5515
クチュール・ナオコ　：〒650-0004 神戸市中央区北野 1-5-4　ルナ棟　TEL 078-241-9381

＜基調講演＞　　アンダーウェアとプロポーションの歴史

神戸ファッション美術館学芸員
百々　徹　氏

講師である百々徹氏は，神戸ファッション美術館学芸員として，「マリー･アントワネット生誕250年記念—18世紀 麗しのロココ衣装展—」（2007年7月14日～10月9日）を企画・担当された．百々徹氏は講演の冒頭で，服飾史は限られた情報から作られるものであり，“ガングロギャル”が，将来，当時の東京のファッションとされる可能性もある，と歴史には限界があることを前置きされた. また恩師である哲学者 鷲田清一氏（大阪大学総長）著『モードの迷宮』の中の言葉「ディスプロポーション」「過少と過剰」を引用され，これら両極の間で揺れる身体美の基準とそれを支える下着について，先史時代から現在までの長きに渡る服飾史実に基づいて解説された．以下に，講演の中から身体美について語られた部分をまとめる．

男性の身体美は，古代からシュワルツェネッガー氏の筋肉美に代表される1970年代まで, 男性美の規範として男らしさの記号と考えられ，今日でもペ・ヨン・ジュンや草薙剛など，一見女性的な印象を受ける俳優でも筋肉を鍛えている．ただし，18世紀のロココ時代には，筋肉は下層労働者の象徴とされ，アビ・ア・ラ・フランセーズを着ている男性の体型は肩幅が狭くて撫で肩で，筋肉は必要とされないような時期もあった．

一方，女性の身体は，フィリップ・ペロの言葉「身体という柔らかい蝋の上にそれぞれの社会が自らの刻印を押している」のように，臀脂，分厚い唇，纏足，極細ウエストなど，その時々の美の規範に沿うように多様に加工されてきた．それでは，今日の痩身美の規範は，いつ頃からできたのであろうか.

中世のプロポーションは，ヤン・ファン・エイクの宗教画に描かれているような, 小さくて白く丸い乳房, 丸いお腹，撫で肩，長い腕が理想であるとされた．16世紀末になると，女性の上半身を逆円錐形にするために，バスキーヌと呼ばれる下着が使われた．さらに17世紀には，鯨骨入りのコルセットであるコール・バレネでますます細くウエストを締め付けた．18世紀前半の華やかなロココ時代，コルセットは装飾とバストアップの役割を果たし，胸は大きくせり出された．下半身は豊満であり, 痩身美の規範は20世紀に入るまでは, 表れていない.

18世紀後半のフランス革命の後，シュミーズドレスの流行で，コルセットが一時的に消えた．19世紀に入り，1810年頃から徐々にコルセットが復活の兆しを見せ，細いウエストの流行は一般の女性たちへも広がった．1850 年代にはウエストさえ細ければ良いという，ジェンダーとしての女性性の象徴が作られ，年齢別コルセットまで作られた．19 世紀末から 20 世紀初頭のベル・エポック「よき時代」は，大きい胸，細い腰，ふくよかな臀部からなる女性らしい曲線が，女性の体型の理想とされた．ムーラン・ルージュでカンカンを踊るダンサーのドロワーズ，アール・ヌーヴォー・スタイルと呼ばれるＳ字型シルエットはこの時代の象徴であり，次世紀の身体解放へと繋がる.

第一次大戦後の1920年代「狂乱の時代」には，自立した女性の象徴としてシャネルに代表されるギャルソンヌ・ルックが登場し，胸と臀部を押さえた男らしいプロポーション，そして若さが理想とされた.

第二次大戦後の1947年，クリスチャン・ディオールのニュールックによりコルセットで締め上げた細いウエストが復活した．1950年代にはマリリンモンローなど，1960 年代にはツィギーと，“グラマラス”と“スレンダー”という相反するプロポーションが広がっていった．今後も，過少と過剰の間を大きく揺さぶられながら，極点の間でどこまでも翻弄され続けるのであろうか.

（記録　川上　梅）

＜講演＞　「宝塚歌劇団の舞台衣装のデザイン」

宝塚歌劇団衣装デザイナー　任田　幾英　氏

宝塚歌劇団衣装デザイナー任田幾英氏より豊かな人生談を交えて，宝塚歌劇団に入団するまでの経緯と，舞台衣装のデザインについてご講演をいただいた．

任田先生は経済学部をご卒業後，就職された名門繊維会社の激務から逃れるため，短期間で会社を辞され，単身パリに向かわれた．これが今日の宝塚歌劇団衣裳デザイナーへのスタートとなった．パリで気ままに過ごされるうち，いつしかサンディカの門をくぐり，デッサンやドレーピングなどを学ばれるようになった折しも，パリで宝塚歌劇団公演と出会い，それが宝塚歌劇団入団につながったそうである．私達は任田先生がパリで貧しくも自由な生活を過ごされた 1960 年代の人間味豊かなお話に惹きつけられた．

任田先生は入団後わずか一年でデザイナーデビューされ，これまでベルサイユのバラ，源氏物語あさきゆめみしなど 495 作品を担当してこられた．

舞台には歌舞伎に代表されるような視覚言語の強い舞台と，シェークスピア演劇のように聴覚要素の強い舞台があるが，宝塚歌劇は前者であり，舞台衣装は人の内面と外面を表現する大きな役割を果たしていると話される．それ故，スタッフと一緒に台本を読み，人物像を描いていき，時代，季節，身分考証をし，衣裳と共に舞台を作り上げておられる．また時代考証はするが再現ドラマを作るわけではなく，宝塚の世界を作るためには嘘八百もつくとも言われる．

宝塚の舞台は女性が演じるため，現実の男性にはない繊細さがあり，役作りにも様々な工夫がされている．下着にパッティングして役柄に見合った理想的身体デザインをつくることや，舞台衣装は常に動き，踊りを意識した衣裳作りであり，たとえばターンして元の位置に戻れる重心の安定した衣服設計が必要であることなど，目的を明確に持った舞台衣装作りの難しさや複雑さを力説された．任田先生がこれまでに描かれたデザイン画は 5 万枚に上るとのことだが，デザイン画は綺麗に見せるものではなく，テキスタイル，マテリアルが分かるように，作り手がわかるように書く必要があると，実際に数々のデザイン画を示されながら詳細な説明をいただいた．最後に宝塚の舞台“エルドラド”の VTR を任田先生の解説とともに拝見させていただき，会場はしばし宝塚の世界に魅了された．

記録担当者の私事だが，日本女子大学附属高校には OH＊TAKARAZUKA という部活があり，ここで舞台衣装の製作にかかわり，衣服のデザインや素材，運動機能性に興味を持った生徒が，毎年被服学科に進学してくる．被服に興味を持つ生徒が減少している今日，宝塚歌劇団が被服分野にも生徒を導いて下さっていることに感謝の意を表したい．

（記録　大塚美智子）

デザイン画を解説される任田先生

講演後の風景

＜事例研究１＞　　紙衣の研究

－和紙を材料とした衣服制作について－

大阪樟蔭女子大学　定延　久美子　氏

紙衣（かみこ）は，和紙の表面に蒟蒻糊や柿渋，寒天などを塗り，揉みやわらげて衣服にしたもので，「紙子」と書かれる場合もある．事例研究として，紙衣和紙とその製法に関する調査をもとに，楮および使用済みの衣料を用いた和紙の制作から衣服としての性能試験，デザイン，縫製方法，着装に至るまでの一連の研究について報告がなされた．

紙衣の歴史は古く，日本では播磨の書写山の草庵で永延二年（988）に性空上人が紙衣を着用して修行されたという記録が『元亨釋書』に残っている．戦国時代に豊臣秀吉や上杉謙信が着用した陣羽織は現存している．江戸時代に旅の防寒着やふとんなど高価な布の代用品として紙衣は普及するが，明治時代になると布帛の普及とともに日常着としての紙衣は消滅し，現在では儀式用や歌舞伎など限られた人々の着るものになっている．近年，和紙は独特なテクスチャーをもつファッション材料として注目されている．

紙衣和紙の制作にあたり，まず東大寺修二会（お水取り）の行事で紙衣を着用して修行される練業衆と呼ばれる僧侶の方から聞き取り調査を行われた．練業衆の着用する紙衣は，丈夫な楮の和紙を細い棒に巻きつけてしわをよせ，柔らかくして，のりで貼りつないで反物にされる．また，仙台紙子の製法を記した『日本山海名物図会』や和紙製作所などからの調査を参考にして，実際に紙衣和紙の制作からはじめられた．

今回の紙衣和紙はパルプ状の楮を用いて溜め漉き法で漉きあげられているが，使用済みのＴシャツ（綿100％の平編み）をビーター（叩解機）にかけて細かい糸くず状になったものを紙料として，再生紙による紙衣の制作にも取り組まれている．和紙を揉んだだけの「楮もみ紙」，蒟蒻糊を塗布した「楮紙衣和紙」，Ｔシャツで作った再生紙に蒟蒻糊を塗布して揉んだ「紙衣再生紙」，一般的な布としてシーチングの性能を比較すると，楮紙衣和紙は破裂強度については４種類中最も強く，引張強度と引裂強度はシーチングに次いで強く，剛軟度はシーチングよりもかなり硬い．紙衣再生紙は楮紙衣和紙よりも引張強度，引裂強度，破裂強度すべてにおいて値は低く，柔らかくしなやかである．楮もみ紙は引張強度，引裂強度，破裂強度すべてにおいて楮紙衣和紙よりも値は低く，蒟蒻糊を塗ることにより強度は高くなる．

以上のような試験結果から，楮紙衣和紙の強度は衣服としてそれほど問題はないと判断され，柔らかさには欠けるが布にはない強いハリがあるという特徴を生かした縫製方法とデザインを考えられた．また，紙衣再生紙は布にも紙にもないテクスチャー，ふんわりとした感触があるため，楮紙衣和紙と重ねて用いられた．長方形や正方形を組み合わせて，和紙の端は始末を施さないで裁ち切ったまま，接着剤で貼りつないだり，小さな穴をあけて紐で綴じたりして仕立てられた．作品例として，楮紙衣和紙を使用したブラウスとスカートのツーピース，楮紙衣和紙と紙衣再生紙を重ねた状態のジャケットと楮紙衣和紙のワンピースの組み合わせを紹介していただいた．撥水試験では破れないことをすでに確認されているが，洗浄試験については現在検討中ということである．

和紙から衣服の制作まで多岐にわたり，定延氏が紙衣の研究に対して真摯に取り組んでいらっしゃる姿がとても印象的であった．また，学校教育における教材として興味深く拝聴した．和紙は植物繊維をシート状にしたものであり，人にも環境にもやさしい素材として今後ますます注目されると思われる．根気の必要な仕事ではあるが，研究の発展を期待したい．

（記録　　服部由美子）

＜事例研究 2＞　　新しい美の創造

ー芸術から生み出された衣服ー

滋賀県立大学人間文化学部　森下あおい　氏

森下先生は服飾デザインを専門とされ，過去から現代，日本・西洋までの幅広い対象を研究とされ，活躍されている．今回の講演は，先生の得意とされる 1920～30 年代のロシアアヴァンギャルドにおける衣服デザインに着目した解説であった．この時代は 2 つの大戦をはさんでおり，近代デザイン運動の中で，衣服においても機能性や合理的な生産のシステムを念頭において改革が試みられた時期である．その時代に様々な方面で活躍し，中心的な存在であるアレクサンドル・ロドチェンコとヴァルヴァラ・ステパーノヴァのデザインの方向性とその意義についてお話いただいた．先生はロドチェンコルームプロジェクトに参加されており，2 人がデザインしたワークスーツとワンピース(写真)の再制作から得られた知見によりデザインの検証にあたられた．（その制作品は岐阜県陶芸美術館とイギリス Victoria & Albert Museum に展示された．）

再制作は，デザイン画と写真，遺族からの取材，得られた残布の複写を手掛かりに行われた．ワークスーツの生地は，綾織毛織物で別布は皮素材であり，機能面・着脱面から 2 部形式であると推定し，ロドチェンの身長をもとにサイズを割り出し，パターン作成がなされた．カフスや開き部分はバックル留めで調節可能であること，鉛筆・定規，懐中時計を入れるための区切りのあるポケットを設けるなど，細部への工夫が示された．着用するうちに付加されていく美的効果を意識しつつ，労働着にふさわしい端的で美しいデザイン効果を想定していたと解釈されている．

ワンピースでは布の模索からスタートされた．ステパーノヴァが考案した布地には幾何学模様が配置されており，生産性の効率性と合理性を促すものであったこと，ワンピースのポケットは脇位置より前寄りにつけて使いよさを重視していること，合理的な裁断によって無駄のない配置がなされていること，えりぐりを大きく取ることで留め具を不要とする縫製の簡素化が意図されているなど，種々の合理性の裏づけを解説いただいた．

再制作には当時の染織技術と繊維材料の実態を基盤としつつ，パターン作成・縫製の技術まで，専門的知識と技術を駆使しなければ成しえない大仕事である．また，具体化の上では人材発掘など多大な時間・エネルギーとともにコストも伴うものである．

森下先生の再制作の過程を通じ，細かく，奥深く，隠れた部分に至る考察がなされ，作者の理念と特徴が具体的に解きほぐされ，大変興味深い事例報告であった．2 人の作品は 80 年以上を経た現代にも新鮮であり続けているという．流行の中で次々と飽きられ取り替えられていく現代の衣生活を反省し，機能性や経済性などの基本をベースとしながら，着続けることで味わいが生まれ，新鮮でありつづける服づくりに取り組む時期にきているのではなかろうかと改めて考えさせられた．　　(記録　川端博子)

ワークスーツとワンピースの再制作作品

見学「神戸ファッション美術館展示室」

共立女子大学（非）
別府　美雪

百々氏の基調講演に引き続き，神戸ファッション美術館の見学へと参加者は2グループに分かれて移動した．ご講演いただいた百々氏と造形作家の吉田氏が，展示品や展覧会の見所などを交え解説してくださった．

まず常設展示では，歴史衣装や民族衣装の実物・テキスタイルなどが様々なキーワードで分類され展示されていた．じっくり見て学べるような工夫がされていて，改めて「衣」について体感でき，再確認することができた．

企画展としては，“マリー・アントワネット生誕250年記念　『18世紀　麗しのロココ衣装展』”が催されていた．この企画展では，貴族の邸宅，正装舞踏会，パリ郊外への散歩という3つの場面設定がなされていた．吉田氏と株式会社七彩の協働により，マネキンには顔があり，表情がつけられていた．時代背景を考慮し，その当時の様子が独創的な視点から展示され楽しく鑑賞するができた．

じっくりと，そしてゆっくりとお二人からお話をうかがうことができ，参加者それぞれが有意義な時間を過ごすことが出来たと思われる．ご多忙の中，丁寧に解説をいただいた百々氏，吉田氏に感謝の意を表したい．

「麗しのロココ衣装展」パンフレットより

夏期セミナーに参加して

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
平林　優子

基調講演では，美意識に合うプロポーションはアンダーウェアで作られてきたという歴史について，時代背景と合わせて教えていただきました．現在の私たちが持っている美意識は，「美は痩身にあり」というものである反面，情報化社会による「過食への誘惑」が多くあり，両者の間で翻弄されながら生きているとのことでした．実際に私自身も「痩せてきれいになりたい」という願望と，「おいしいものいっぱい食べたい」という願望の両方を持ち合わしていたため，複雑な気持ちにもなりましたが，講演後には神戸ファッション美術館の展示を，先に聴いた講演内容について1つ1つ説明していただきながら，鑑賞できたことで，さらに理解が深まり，とても勉強になりました．

見学会では，インド･サリーについて学びました．昔はブラウスやペチコートといったアンダーウェアを着用せず，腰紐1本を先にしっかりと腰に締め，それに布端を入れ込むようにして布を体に2周巻きつけて着用していたと聞き，先に腰紐だけを巻きつけるという着用方法の衣服を他に知らなかったので，驚きました．また，ブラウスは袖・身頃ともにゆとり量がほとんどなく，肌に密着するように作られ，これは，ゆとり量が多いと不細工な着こなしであると考えているからでした．さらに，美はスレンダーかつ長身であることとされ，サリーは実際よりも長身・痩身に見える効果があることも知りました．インド人の美意識に触れることができ，とても興味深く感じました．

その他の講演や事例研究の発表や見学会も全て参加してきました．とても充実し2日間となりました．

第 14 回アジア地区国際家政学会議（ARAHE）マレーシア大会

実践女子大学　高部　啓子

第 14 回アジア地区国際家政学会議は，平成 19 年 8 月 6～10 日にマレーシアの Petaling Jaya で開催されました．全体的な報告は，日本家政学会誌 59 巻 12 月号に詳しいのでご参照下さい．ここでは被服学に関する研究発表を中心に記すことにします．

プログラムによりますと，発表件数は全体では口頭発表 79 件(日本 12 件)，ポスター発表 150 件(日本 61 件)の計 229 件の申し込みがありました．口頭発表はインド，マレーシア，タイで 62%を，ポスター発表では日本，韓国，台湾で 97%を占めるというように国によって発表形式に偏りがありました．

被服学領域の発表は美容領域も含んでおり，口頭発表 7 件, ポスター発表 11 件と全体の 1 割にも達せず少な目でした．

タイからは，“タイにおける地方の絹染色”，“タイのスタンダードサイズ”，“タイにおける伝統的手紡ぎ工程からつくられた糸の特性”，“北部タイ原産布におけるタイの智恵の潜在能力”の 4 件, モーリシャスからは“職人的紙製作のファッションへの統合”，“テキスタイルやファッションによる疾病に対する意識のキャンペーンづくり”の 2 件，インドからは“Tulsi leaves（しそ科バジルの一種）を用いた綿と絹の染色”の 1 件，日本からは“花粉防御のためにつける各種マスクのフィット性と性能”，“花粉防御用マスク装着時の気候”，“高齢者用特養ホーム男性居住者のファッションセラピー”の 3 件，韓国からは“韓国大学生を対象としたファッション買い物経験やファッション関連の店員特性に対する消費者の評価に関する研究”，“時代変化に伴う韓国女性の美の表現に関する研究－Body Design に焦点を当ててー”，“3-D スキャナーと自動身体計測プログラムを用いた成人男性の上半身の分析”，“ドラム型洗濯機を用いたすすぎ回数の違いによる綿布の機械的及び触覚的特性”，“21 世紀ファッションアイテムにおけるミニマリズムに関する研究”，“アメリカと韓国の男性消費者の衣服購買志向の文化間の比較”，“ファッション製品広告のモデルの特性による広告効果に関する研究”の 7 件，台湾からは“スタイリング美容術の技術的創造的能力尺度の確立”1 件でした．

タイトルだけからは内容が十分伝わりませんが，整理，染色，材料，構成，衛生，消費，ビジネス，美容等の広範囲の研究が発表され，エコ的観点からの天然染料や天然素材の開発につながる研究，リサイクルペーパーによるウエディングドレスの制作など環境問題の世界的広がりを実感しました．タイスタンダードサイズの発表では，17-49 歳男女の標準身体寸法が示され，バスト，ウエスト，ヒップについてタイ，日本，イギリス，アメリカ間の比較がされていました．その中で男性のバスト以外はいずれも日本人が一番小さいという結果は意外でした．また韓国からは 3-D スキャナーで得られたデータから体表長などの身体寸法を計測するソフトウエアの精度に関する発表がありました．韓国では国家プロジェクトとして 2004 年に実施した Size Korea でアメリカのサイバーウエア社のスキャナーとドイツのヴィトロニック社の Scan Worx VV2.6 を使用したそうです．結果はかなりたくさんの項目に対してよい適合性が得られたようです．

次期国際会議は 2009 年 11 月にインドのムンバイで開催されます. 参加しにくい時期ではありますが，若い方々が積極的に発表されることを念願しています．

平成 19 年度被服構成学部会研究公開講座
生活を豊かにする衣服
ー着心地の良い快適な衣服を求めるためにー

平成 19 年度公開講座実行委員長　布施谷　節子（和洋女子大学）

被服構成学部会の公開講座は，文部科学省の補助金を受けて，平成 15,16,17 年度の 3 年間にわたり，ものづくりの楽しさを伝える内容で実施されました．東京・名古屋・広島と場所を移し，各地の部会員の先生方の協力を得て成功を納めて参りました．今年度は，文部科学省の補助金の選には漏れてしまいましたが，標記のようなテーマで実施の予定で，実行委員の先生方のご尽力のもと鋭意準備を進めております．

公開講座は部会員の日頃の研究成果を広く一般に公開するものです．過去 3 回の公開講座では，主として家庭科教員や中学・高校生に呼びかけをしました．教員には，家庭科の授業実践の中で生かしてもらい，生徒に被服構成の楽しさを伝えて欲しい，生徒には講座で学んだことを日々の生活の中で生かして欲しいと願って企画をしたと記憶しています．

今年度の公開講座では，その成果が教育分野で活用されることを願うのと同時に，一般の方々や高齢者や障害者に衣服の快適性に注目してもらい，被服構成学の研究成果を活用して欲しいと願っています．広報活動は行っていますが，どれだけ一般の方や高齢者・障害者が参加してくれるかは未定であり，本講座が成功するかどうか一抹の不安があります．しかし，シンポジストを引き受けて下さった先生方やワークショップを担当して下さいます先生方のご尽力によって，部会員相互の交流はもとより，参加の高齢者や障害者，介助に当たっている方々とも交流ができ，関係者の生の声を聞くことができる絶好の機会と考えています．これらの声が今後の構成学部会員の研究課題となり，他領域の方々との共同研究のきっかけになりましたら幸いです．

プログラム

開催日時：平成 20 年 3 月 21 日（金）

開催場所：千葉県市川市　和洋女子大学　西館 1 階

9:30～　受付

10:00～10:10　開会の挨拶　部会長　猪又美栄子
実行委員長　布施谷節子

10:10～11:30　シンポジウム 1

「人の体と着心地の良い衣服」

コーディネーター：猪又美栄子

①「衣服サイズ選択の問題」　大村知子

②「衣服の動作適応性」　石垣理子

③「障害者と衣服」　雙田珠巳

11:30～13:00　昼食ならびにポスター発表

13:00～14:30　シンポジウム 2

「心を元気にする衣服」

コーディネーター：冨田明美

①「高齢者の装いの効果」　泉加代子

②「衣服の色彩の効果」　芦澤昌子

③「装いは生きる悦び
ー障害者の立場からー」　山本邦昭

14:30～15:25　展示とワークショップ

①衣服圧体験　嶋根歌子・薩本弥生

②若返り，生き生き
シニアファッションショーの上映と解説
泉加代子

③安心・安全な衣服の展示とアドバイス
大塚美智子

④適合サイズ探し　大村知子・平林優子

15:25～15:30　閉会の挨拶　副部会長　雲田直子

TX 記念　第 8 回全国中学生創造ものづくり教育フェア報告

東京学芸大学　鳴海　多恵子

1 月 26，27 日の 2 日間開催するこの催しは，1 日目にたくさんのコンクールが同時に開催されている．技術科関係では全国7地区から選抜された20名の生徒が 4 時間で作品を作る「めざせ！！「木工の技」チャンピオン」，82 チームによる「創造ロボットコンテスト」のトーナメント競技，参加者 200 名全員が入力技能を競う「パソコン入力コンクール」．家庭科関係では全国 5 地区から選抜された 16 名が 4 時間で作品を完成させる「とっておきのアイデアハーフパンツ」と 20 チームが 90 分で「あなたのためのお弁当」を作るコンクールが行われる．このほか 325 点の応募作品を審査して展示する「生徒作品コンクール」も行っている．この他，本選にいたるまでには地区ブロックでの選考活動や応募する生徒の指導もあり，準備の規模や量の大きさは相当なものと思うが，これらの準備と運営がすべて技術科と家庭科の先生方の熱意と努力であることに驚きとともに深く敬意を表する思いである．今年は会場来訪者が 16,000 人となり，つくば市での最後の開催は大成功のもとに幕を閉じた．来年は東京都足立区で開催予定である．被服構成学部会では「生徒作品コンクール」に二つの奨励賞と「とっておきのアイデアハーフパンツ」部門に被服構成学部会賞の授与と審査を担当している．今年は「生徒作品コンクール」の奨励賞は，鳴門教育大学附属中学校　長谷川綾郁さんの「Many シルエットパンツ」（写真 1 の右），宮崎市立広瀬中学校　齋藤　梓さんの「ゆかた」（写真 1 の左）に，「とっておきのアイデアハーフパンツ」部門では館山市立第三中学校　國井優子さんの「ピアノ旋律」に部会賞が決定した．

写真 1　生徒作品コンクール

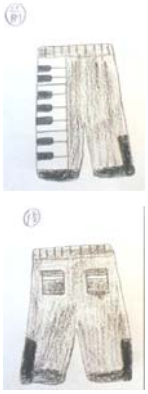

写真 2　アイデアハーフパンツ
（左端が受賞作品）（左端が部会賞作品）

（國井さんの作品 PR から）このハーフパンツは，私は音楽が好きなので音楽の世界を楽しめるパンツ をイメージしてデザインしました．脇には白のあまりの布を利用し黒のリボンテープで鍵盤のアップリケをつけました．暖かいときには折ってはけて，寒いときには長くしてはけるように裾も工夫してあります．

研　究　報　告
筋電図による衣服の動作適応性評価に関する研究

昭和女子大学　石垣　理子

研究の背景

衣服は，人々の身体を包み常に密接な距離を保つ生活の基本的な構成要素であることから，その快適性が日常生活の質に与える影響は大きい．現在，日本は世界に類を見ないスピードで高齢社会に突入し，その中で現代の高齢者は自らの老いを意識させないような機能的で身体的着心地が良く，かつ美的にも満足できるデザイン性の高い衣服を求めている．衣服が動きやすく機能的であることは，健康な若者にとっても必要とされることであり，今後の衣服においてニーズの高い設計要因であるといえる．

身体的着心地の一要因である動作適応性(着用中の動きやすさ，着脱の容易性)については，的確に評価できる客観的な指標が求められ衣服圧を中心に研究されているが，着用動作中に発生する諸問題から適用できる範囲は限られ，現在評価指標として満足できるものは見つかっていない．そこで，動作中の着用者の生理的反応である筋電図に注目した．筋電図は，動作時に筋細胞が発する微小な活動電位を捉え波形として表したものであり，動作中の筋負担や運動の変化の観察評価の材料として，医学やスポーツ科学，労働科学などの分野において一般的に用いられている．しかしながら，衣服分野においては筋電図による動作適応性評価研究はあまり進んでおらず，測定や解析方法が確立していない．

研究目的

本研究は，動きやすさという着用者の感覚的な評価を客観的に裏付ける重要な評価指標のひとつとして，筋電図を位置づけようとしているものである．すなわち，衣服分野での応用に有効な筋電図の測定方法，および解析方法を見出して，衣服の動作適応性における筋電図研究のための方法を確立することを目指した．そのために，表面筋電図を用いて様々な衣服による動作拘束を評価し，筋電図と主観評価との関連について把握して，客観的評価指標としての筋電図の有効性を検討することを目的とした．この目標を達成するために，本研究では次の5つを課題とした．

① 解析に耐えうる有効データの測定方法の検討，および衣服評価のための測定動作の抽出
② 筋電図による定性的評価の妥当性の検証
③ 定量的評価の前提としての動的な筋収縮時の筋活動量と負荷との関係の把握，および定量化指標の抽出
④ 定量的評価の妥当性の検証
⑤ より広範囲の被験者による評価を前提とした高齢者による実験方法の検討および被験者特性の把握

これらの課題の検討のために4つの実験を柱とした．

１．衣服形態の差異が下肢動作に与える影響について

拘束水準を変化させたタイトスカート着用時の平地および階段歩行時の下肢筋の筋電図と膝関節角度の変化パターンから定性的に検討した．また，拘束の強いスカートを長時間着用した場合の人体への影響について，疲労感と歩行時の下肢筋電図から検討した．その結果，拘束の強いスカートは平地および階段上昇時の歩行を変化させることが筋電図の原波形および膝関節角度の観察から明らかになり，その変化は動きやすさの官能評価の結果と一致した．また，拘束の強いスカートの長時間着用は，着用中の拘束を原因とする疲労の蓄積により，脱衣後も数日にわたって疲労感を残留させる傾向があった．長時間拘束の強いスカートを着用した後の脱衣時の歩行動作において，下肢筋の筋電図の振幅の増大が認められ，着用者の疲労感との関連が示唆された．

２．上肢動作における筋負担の定量的評価

上半身用衣服の評価への応用を前提として，負荷水準を変化させた時の上肢動作の筋活動の定量的評価を試みた．その結果，負荷重量と三角筋の活動量であるmEMG の間に概ね相関が見られた. 衣服の動作適応性評価のための動作および測定筋として，上肢の前挙および側挙動作における三角筋の導出が有効であり，特に 90 度前挙および側挙の動作は, 負荷強度の検出力が高いことがわかった．また，一定条件でコントロールされた上肢動作の筋負担の評価において，積分値を動作時間で除した mEMG の有効性が確認された.

３．重ね着における摩擦を要因とした着脱時の動作適応性評価

着脱動作における衣服の動作適応性について，素材間の平均摩擦係数が異なる重ね着を拘束要因として筋電図による定量的な評価を試みた．その結果，三角筋の筋電図の iEMG により摩擦による衣服の拘束性の差異について定量的に評価することができた．官能との関係では，筋電図は，官能評価では現れにくい着脱のような一時的な動作時の，比較的弱い拘束の差も検出する側面を見せ，着脱効率の評価指標として有効性が高いと考えられた．また，全体的傾向としては，重ね着した2種の素材間の平均摩擦係数MIU と着脱動作時の iEMG は正の相関的関係にあることが認められた．一部，拘束が強い場合の適応動作の違いにより，拘束の影響が統計的有意にならなかったケースもあったが, 関節角度などと併せて総合的に検討することで，動作の持つ特性を明らかにする有効な材料になることがわかった.

４．素材の伸縮性を要因としたジャケットの動作適応性評価

より広い身体条件の着用者による評価への応用を目指し，若年女子と高齢女子を対象として，素材の伸縮性を要因としたジャケットの着脱および肩関節動作への適応性を筋電図によって評価した．その結果，高齢者にとって着脱動作の筋負担は若年者よりも大きいと推察された．各動作における筋活動量を着衣条件間で比較した結果，素材の伸縮性の差によるものと考えられる変化パターンと，伸縮性以外の要因が関与すると推定される変化パターンが認められた．また，筋活動の変化パターン別出現率からは，年齢層による筋活動の反応の違いが認められ，高齢者ではゆとりや構造だけではなく素材の特性が動作を変化させている可能性が示唆された.

結論

以上 4 つの実験を通して，種々設定した衣服の動作拘束条件を筋電図により定性的および定量的に評価でき, 目的で掲げた①～⑤の課題を達成できたことから, 動作適応性を評価するための筋電図による基本的な測定・解析方法を示すことができたと考える.

動きやすく着心地が良い衣服条件を見出すためには, 着心地に関わるデータベースが必要であるが，その構築のために筋電図による評価が寄与できると結論した. また，健康な若者とは異なる身体状況の着用者における衣服による動作の変化など，基礎的データの採取にもこの筋電図手法は役立つと考えている.

本研究の結果から，高齢者の筋活動は個人差が大きいことが明らかとなり，統計的検定による定量的評価のためには高齢者実験データの更なる蓄積が必要である．また，そのためにより効率の良い実験方法の検討が望まれる．今後はこれらを踏まえたさらに応用的な研究を進めたい.

本研究報告は 2007 年 3 月, 昭和女子大学大学院　生活機構研究科　博士課程学位論文による.

謝辞

研究を進めるに当たりご指導いただきました，昭和女子大学の猪又美栄子教授に深く感謝申し上げます.

武蔵工業大学の谷井克則教授，昭和女子大学の小原奈津子教授，芦川智教授，安宅信行教授，ならびに実験に協力してくださった多くの皆様に深くお礼申し上げます.

関 連 学 会 短 信

＜ITAA2007 年次大会＞

東京田中短期大学　小田巻　淑子

ITAA2007 年次大会は 11 月 6 日～10 日まで米国ロサンゼルスの Omuni Hotel において開催されました．ロスは，映画産業とともにファッション産業の一つの中心地でもあります．長らく ITAA の事務局長を勤められ, 部会の旅行でもお世話になった Dr. Hutton が昨年で退任され，今年はお目にかかれず残念でした．その一方，大会参加者に若い人の姿が目立ち，学会が若返った印象を強く受けました．その背景には，開催地がファッションの発信地の一つであるということも影響しているのではないかと思われ，米国における大学の被服教育が産業界と深く結びついて発展していることを伺わせるものではないかと思われました．

研究やポスターの発表テーマは，実社会で役立つものが多くみられ，Product Development, Program Assessment など，消費者動向から市場の可能性を調査したもの，学生のデザイン教育のあり方・具体的な方法論など興味深いものが多くみられました（オンラインで見られます）．それらの発表の中には，いつものことながら韓国からの発表が多くみられました. また, 特別話題提供として設けられた”Around the World Encouraging Global Cultural Study and Exchange” のなかで, 日本の今の若者のファッションが取り上げられていたのには驚かされました．

オプションツアーでは，私はデザイナーKaren Kane の会社見学に参加しました．その会社は，アットホームな雰囲気と活気が溢れ，その企業スケールは想像以上に大規模なもので（写真１），徹底したコンピューター化と省力化が計られていました．自らのデザインについて語る Karen は 50 歳とは思えない若々しさと魅力に溢れ，私達を惹きつけました．その姿勢が調和のとれた色彩，シンプルなデザインで機能性とコーディネートを追求したものを生む原動力となり, 創立 25 年で米国屈指のアパレルメーカーへ急成長を遂げたのだと頷けました．

また，皆が集う大会の General Session では，今後の米国被服産業の発展をめぐるスピーチがあり，California Fashion Association 会長の, アパレル生産品の販路を世界的な視点で考える必要があること，そのターゲットとして発展途上国のアジア，特にインド，ベトナム等が挙げられ，その為には，各国の経済，気候，宗教，地理といったさまざまな背景を捉える必要がある等々，そのグローバルな考え方に共感しました．その考えを受けてか参加者や Awards 受賞者にも，インドなどアジア系の人々が目立ち，学会も既に歩調を共にしている印象を強く受けました．日本においても今後，このグローバルな視点に立つ被服教育が求められるのではないかとの思いが深くなりました．

日本の産業界では大学卒より専門学校出身者が活躍している傾向がありますが，以前，部会の研修旅行で訪問したノースキャロライナ大学の Cynthia Istook 教授が，毎回，研究や作品発表に，院生と共に活躍されている事に感心しました．このように，米国では研究も感性も技術も備えた若い後継者が育つ土壌が大学や学会にある事に改めて考えさせられました．

今回，私が出展した Design Exhibition は，作品集が刊行され，Mounted Exhibit については，大会の前後 2 週間，カルフォルニア大学のアートギャラリーで初めて公開展示されるなど開催方法が大きく変化しました．この方法は，デザインを学ぶ学生たちの参考になるとともに，デザインが採用された学生・教員会員にとっては企業にアピールする機会を多くするなど，大学・学会・産業界の一体性を強く感じました．

2007 大会から事務局の方針が多少変わり，戸惑う面も多々ありましたが，参加できてよかったと思っています．また，多くの先生方のご尽力で実現した部会研修旅行で ITAA に出席できた事が，今回の幸運に恵まれるきっかけとなりました．心より感謝申し上げます．

附記：参考までに，出展作品のテーマ，コンセプトの一部，写真を紹介いたします．

テーマ：A Dress of Japanese Paper Craft Image

コンセプト：My inspiration is from the image of a Japanese paper craft lantern constructed by paper and bamboo ribs. Its silhouette with the curved surface and pleats in the composites of bright and darkness attracts me, so I tried to design a dress with Japanese simplicity and elegance imaging Japanese craft image.

＜日本繊維製品消費科学会＞
2007 年年次大会研究発表会

福島大学　千葉　桂子

日本繊維製品消費科学会年次大会は 2007 年 6 月 16 日（土），17 日（日）の 2 日間にわたり東京の大妻女子大学で開催された．両日とも３会場における研究発表と図書館棟を会場としたポスター発表が行われた．また，研究発表の中には５つのセクションに分かれて「企画発表」が設けられていた．テーマは「人間生活をサポートする高機能サニタリー製品」「洗濯機の現状と今後の方向性～新たな産学連携に向けて～」「次世代の着装シミュレーションを探るその２」「スポーツ」「衣服のユニバーサルデザイン」であり，少子高齢化，環境問題，健康，快適性など，まさに現代生活のあり方に深く関わる内容が網羅されており，大変興味深いものであった．

また 2006 年度の年次大会から引き続き，発表件数や参加者の動員を図るために運営上の様々な工夫が行われているようであった．例えば，企画発表やポスター発表時には原則として研究発表は行わないことや企業の展示はポスター発表会場に隣接させるなどである．参加者の立場からしてもそれらの工夫は，タイムスケジュールが有効に立てられ，かつ幅広い情報収集を可能にするものであった．その効果もあってか，参加者も昨年度を上回る 275 名となったようだ．

企業展示もスポーツメーカー，洗剤メーカーなど多様な企業の参加がみられた．また，それら企業が展示する製品については企画発表で取り上げられるものもあり，実際に商品を見て触って確認したことが，企画意図の説明を聞くことによってさらに理解が深められてよいと思った．やはり，本学会が広く関連分野の研究者や企業を受け入れ，相互の発展を支え合えるベースを提供していることが，そのような効果的な仕組みを作り出す力になっているのであろう．本大会に参加することによって，学会が果たす社会貢献の役割の大きさを改めて認識させられた．

＜日本衣服学会＞
- 第 59 回（平成 19 年度）年次大会 -

京都女子大学短期大学部　岡部 和代

第 59 回年次大会の総会並びに研究発表会は，平成 19 年 11 月 17 日(土)に，福岡教育大学で開催されました．大学は学園祭の真っ只中で構内は活気に溢れていました．研究発表会々場においても熱心な発表と質疑応答が行われました．韓国からの発表 1 件を含めて，研究発表は 13 件でした．消費者意識に関するもの，被服教育に関するもの，織物に関するもの，染料や洗濯に関するもの，着心地や温熱的快適性に関するものなどでした．特別講演は「カンボジアの染織」で，福岡市美術館学芸員の岩永悦子氏が講演されました．カンボジアはインドシナ半島でも最も精巧な絹絣を産出することで知られています．緯絣に代表されるカンボジアの絹織物について概観されながら，その特色とインドネシア，マレーシアの絹絣との関連を探り，少数民族であるチャム - マレー人が，カンボジアの織物文化について果たした役割について，映像や実物を示されながら講演されました．

さて，日本衣服学会は 2008 年に創立 60 周年を迎えます．今，発祥の地，京都で創立 60 周年記念大会を開催する準備が行われています．開催日時は平成 20 年 10 月 25 日（土）と 26 日（日）の 2 日間で，1 日目は講演とシンポジウム，2 日目は研究発表会と総会や記念式典が予定されています．シンポジウムのテーマは「服育」です．衣「服」を通して豊かな心を「育」てる「服育」は，生活の基本である「衣」を通して，人と社会との関わり，人と環境との関わりなどを教育に展開し，次世代の人材育成を考えようとするものです．服育の重要性を説き実践されている企業にも加わっていただいてシンポジウムを開催する企画を進行中です．多くの方々のご参加を期待しています．

＜服飾文化学会＞
- 第 8 回総会・大会 -

鎌倉女子大学　長田美智子

服飾文化学会第 8 回総会・大会が，200 7 年 5 月 19 日（土），20 日（日）にお茶の水女子大学，大学本館を会場として開催された．会員，一般・学生あわせて 94 名の参加があった．

1 日目は口頭発表 8 件，特別講演「モダニズム期日本の工芸産業と女性―今井和子の留学体験と自由学園工芸研究所―」講師　菅靖子氏（津田塾大学助教授）の講演が行われた．ヨーロッパのモダニズム的デザイン教育を経験した今井和子の活動に焦点をあて，ヨーロッパと日本のデザイン活動の橋渡しとしての役割やフェミニズム思想に端を発した自由学園の工芸研究所の設立過程とその社会的役割について，興味深い講演が行われた．その後，総会の後，懇親会が行われ，会員相互の交流が図られた．

2 日目は口頭発表 5 件，展示発表 11 件が行われ，午後からは六本木の「東京ミッドタウン」探訪と題して安藤忠雄の設計になるデザインセンター（21 21DESIGN SIGHT）の特別展「チョコレート」の鑑賞と隈研吾によるサントリー美術館「日本を祝う」を鑑賞した．事前に杉野服飾大学教授の塚田耕一先生の解説が行われ，日本建築とデザインの新たな出発を認識できた見学会であった．

研究発表の分野は服飾・染色史，装束の修復，被服心理，繊維製品リサイクル，制服産業，縫製技術，人形芸術など多岐にわたり，活発な質疑が交わされた．作品展示発表はタペストリー，手織布，名古屋帯，ワンピースドレス，チュニックドレス，タウンウェア，フォーマルウェア，ジャケット，絞り着物，ドレス・オブジェなどが展示された．新たな素材と独自の工夫を加え，独創性のある作品など，学会の特色でもある実作品によるプレゼンテーションが行われ，限られた時間だったが，貴重な意見交換が行われた．

平成 19 年度　修士論文テーマ・要旨

高等学校家庭科衣生活領域における企業等との連携実現に向けての基礎的研究

東京学芸大学　大学院　教育学研究科　赤澤　愛
（指導：鳴海多恵子）

衣生活領域の授業に「企業人による出前授業」の導入を進めるにあたり，企業と学校の両者のニーズと課題を明らかにすることを目的として，家庭科教員および企業を対象とした調査を実施するとともに，その結果をふまえ試行授業を実践した．調査の結果，高校における出前授業の実践は少なく，特に衣生活領域では実施している関連企業も少なかった．教師側の実施しにくい要因は，費用の問題と打ち合わせ等の準備の負担感および企業講師の質への不安であったが，企業の教育貢献活動への関心は高かった．企業対象の調査結果から出前授業の経費は，講師料としては不要であるが，生徒への配布資料代等については学校負担になるケースがあり，その出資元が課題であることがわかった．出前授業を実施している企業側から教員への要望として，授業を任せるのではなく，一緒に授業を構築する姿勢があげられた．試行授業は，授業構築に要する事前打ち合わせのプロセス，授業内における役割分担の検証，企業の独自性を生かし，授業に参加することの必然性の確認を視点として実施した．

その結果，教師と企業人講師の役割を明確化することで，生徒にとって意欲・関心の高い授業が実施できることが確認されたが，新たに授業を構築することは準備の負担が大きく，企業の既存のプログラム内容を十分理解し，授業内での位置づけを明確にして実施することが有効であると判断された．今後は，本試行事例をモデルプログラム化し，高等学校授業へ活用する方策を検討する．さらに，現在，出前授業を実施している衣生活領域関係の企業の中には教育貢献活動の内容を非公開とするなどもあり，情報が入手しにくい現状改善も今後の課題である．

心拍スペクトル解析による衣服の着衣時における身体的・精神的負担の定量化の実験方法に関する研究

東京学芸大学　大学院　教育学研究科　畑山真智子
（指導：鳴海多恵子）

着衣動作の負担の定量化実験および解析における条件設定等を目的として，試験着の着衣順序による影響，心拍スペクトル解析（HRV）と官能検査の関係性，個人別の HRV 解析結果の傾向について検討した．

被験者は 20 代女性 30 名とし，編布試験着と織布試験着の着衣順序を被験者の半数ずつ変え，着衣前，着衣後 1 分，2 分，3 分の LF,HF とその比を指標として検討した．

その結果，着衣後の HRV 反応は，先に着用した試験着に影響されることが確認された．すなわち，織布試験着を先に着用した場合の編布試験着の着用反応は，先に着用したときよりも LF/HF が高くなり，精神的負担が大きいことが示され，逆に，編布試験着の後に着用した織布試験着は，先に着用した場合の反応よりも負担が少ないことが示された．また，官能検査では着用順にかかわらず，織布試験着は編布試験着の着用負担に比して大きく，体感的な評価項目で明確な差異が示された．

以上の結果から，着衣動作による負担の解析においては HRV 解析と官能検査の併用がなされることが適切であると考えられた．個人別の解析データには 4 つの傾向が出現したが，着衣後 1 分で LF/HF が上昇する傾向は着衣順序に関わらず43%の出現率でもっとも多かった．

衣服の設計･着装からみた成人女子の身体特性に関する研究

東京家政学院大学大学院 人間生活学研究科
高井　香那
（指導：川上　梅）

【目的】JIS 既製衣料の着用者区分で「成人女子」とは 16 歳以上の女子を指すが，実際のアパレル市場では，ターゲットを絞り年齢層を限定して商品企画をしている．JIS 規格を基準として，合理的なサイズ展開はメーカーの戦略の一つであるともいわれている．そこで本研究では，年齢，バストおよび身長の 3 要因から体型に関する検討を行い，体型の現状を把握する一方で，表示サイズの市場調査を行うことによりサイズ適合の実態に関する検討を試み，合理的な衣服設計あるいはサイズ設定の指針を与えることを目的とした．

【方法】人間生活工学研究センターが 1992-1994 年に計測した 20 歳から 90 歳までの成人女子 約 4,000 名の身体計測データを使用した．主に次の 3 点について検討した．①ワコール発表のビューティフルプロポーションと実際の身体計測データとの比較，②5 歳毎の年齢層別バスト･身長グループの出現率4％以上のグループを各年齢の典型である標準体型として検討，③市場調査による表示サイズとメーカーがターゲットとする年齢層の身体データとの比較，である．

【結果】主に次のような点が明らかになった．①加齢変化として中高年ではバストの平均値が意味を持たない集団になり，小さいサイズと大きいサイズの両方に対する配慮が必要になる．現在でも，市場には大きいサイズと小さいサイズが展開されているが，今後は年齢区分を有したサイズ展開が必要不可欠になると思われる．②現状では素材やデザインでかなりカバーしていると思われるが，メーカーは先入観と理想を交えてサイズ展開する傾向がみられた．③原型製図法は一般に若い女性を対象としたものが普及しているが，原型製図の基本となるバストの他項目との関連性は，若年と中高年では明らかに異なることから，中高年の原型製図法に関する検討が必要である．

パンツの動作適応性に関する研究

静岡大学大学院 教育学研究科 山内　幸恵
（指導：大村　知子）

【目的】衣服が動作に伴う人体の体形変化に対応しない場合，「だぶつく」，「ひきつれる」等のトラブルが起こり，拘束あるいは圧迫から疲労を感じることがある．

本研究の目的は，静立時・動作時ともに快適なパンツの設計および既製パンツの選択に資することである．

【方法】構造と素材の異なる 4 種類のパンツそれぞれ 5 サイズの計 20 着を製作し，官能評価，被服圧，動作分析よってはき心地や着くずれを検討した．官能評価では，20 歳前後の女性 73 名について既製パンツの選択傾向や着用者自身と他者の観点からの適合性を検討した．被服圧は，20 歳代の女性 7 名を被験者とし，立位，椅座位と蹲踞時のウエスト，ヒップ，膝について検討した．動作分析では，三次元動作解析システムにより立位から座位への動作過程における人体とパンツの軌跡を捉えることで，動作に伴う着くずれのプロセスの解明を試みた．以上の実験結果を総合的に考察し，着衣のずれと人体への負荷の関係を探った．

【結果】ずれ量を人体の経線別にみると，ずれ量の大小と皮膚の伸展の大小は一致したが，緯線別には，皮膚伸展の大きい部位よりも，開口部ですれ量は大きかった．ずれは，皮膚の伸展した部位に向かって起こるが，パンツ各部位の幅にゆとりがあれば矢状方向・横方向にずれ，パンツと人体の間に存在する空隙量を変化させることで体形変化に対応しており，これによって対応できない場合，垂直方向にずれると考察できた．

着くずれの原因は，ゆるみが大きかったり，ローライズによってウエストでの支持が不安定となることによるもの，ゆとり量と布地の伸縮量の和が皮膚の伸縮量より小さいことによるものの 2 要因に分類できた．ゆるみが大きいためにずれる場合には，被服圧は小さく，「大きい」と評価し，股上が浅いためにずれる場合には，原型とほとんど変らない被服圧が生じているのにもかかわらず，「大きい」と評価する傾向にあった．ゆるみが小さいためにずれる場合には，被服圧は大きく，「小さい」と評価し，人体への負担が大きかった．

会　務　報　告

1. 平成 19 年度会務報告

1）事業報告

①　総会・夏期セミナー

日時：平成 19 年 8 月 27 日（月），28 日(火)

27 日　　12：30～20：00

28 日　　9：30～16：00

場所：神戸ファッション美術館

神戸女子大学教育センター

②　公開講座

日時：平成 20 年 3 月 21 日（金）

9：30～15：30

場所：和洋女子大学

③　全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時：平成 20 年 1 月 26 日(土)，27 日（日）

場所：つくば国際会議場「エポルカつくば」

④　ホームページリニューアル

⑤　部会誌 29 号発行

平成 20 年 3 月 31 日（月）

2）庶務報告

第 1 回運営委員会

日時：平成 19 年 5 月 13 日（日）

12：20～12：50

場所：長良川国際会議場国際会議室

①　平成 19 年度事業計画について

- 平成 19 年度夏期セミナーについて
- 平成 19 年度公開講座について
- 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援
- ホームページのリニューアルについて

②　平成 18 年度収支決算（案）について

③　平成 19 年度予算（案）について

④　部会誌 29 号について

第 2 回運営委員会

日時：平成 19 年 8 月 27 日（月）

11：00～12：00

場所：神戸ファッション美術館４Ｆ

第 2 セミナー室

①　平成 19 年度総会について

②　平成 19 年度夏期セミナーについて

③　平成 19 年度公開講座について

④　全国中学生創造ものづくり教育フェアの後援について

⑤　部会誌 29 号について

⑥　その他

各係からの報告

平成 20 年度科研費申請について

3）会計報告（次頁以降参照）

2. 平成 20 年度の事業計画

①　総会　　平成 20 年 8 月

②　夏期セミナー　　平成 20 年 8 月

③　全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援　　平成 21 年 1 月

④　公開講座　　平成 21 年 3 月

⑤　部会誌 30 号　　平成 21 年月 3 月末

30 周年記念特集号発行

⑥　ホームページの維持管理

⑦　その他

平成 18 年度　被服構成学部会夏期セミナー　収支報告書

◆夏期セミナー

収入の部

費　目	予　算	決　算	備　考
参加費（昼食代含む）	660,000	629,500	部会員44名、非部会員5名、学生4名
雑収入	0	3,000	テキスト代　　(1,000× 3)
合　計	660,000	632,500	

支出の部

費　目	予 算	決　算	備　考
会場費	0	0	
講師謝金	0	44,444	所得税4,444含む
資料作成費	80,000	40,000	
要旨集代	70,000	69,615	
印刷代	50,000	0	
通信費	10,000	4,560	
人件費	75,000	75,000	
会議費	31,500	25,550	
庶務費	20,000	16,845	
交通費	27,240	25,100	
教材費	10,000	9,000	
昼食代	124,000	106,940	
雑費	10,000	11,508	
消費税相当分	33,000	0	
予備費	119,260	66,450	
合　計	660,000	495,012	

差引残高＝　　¥ 137,488

◆懇親会

収入の部

項　目	予　算	決　算	備　考
懇親会費	160,000	152,000	@4,000×38

支出の部

項　目	予　算	決　算	備　考
食事代	160,000	150,000	

差引残高　　¥　2,000

会計　　佐藤眞知子、磯崎明美

上記事項に相違ございません。

平成 19 年 8 月 22 日

会計監査　芦澤昌子　石垣理子

(1)平成 18 年度　収支決算報告（H18. 4.1 ～ H19. 3. 31）

費目		予算	決算	備考
収入	部会費徴収	400,000	416,580	122 人分(複数年度払い込みを含む)
	その他の収入	0	59,725	テキスト 30 冊販売，16 年度消費税分返還(50,725)
	基金より	345,248	345,266	
	前年度繰越金	0	0	
	計	745,248	821,571	
支出	総会運営費	100,000	58,787	
	部会誌発行費	130,000	93,870	部会誌印刷
	人件費	10,000	0	
	会議費	40,000	21,347	運営委員会，編集委員会
	庶務費	15,000	3,600	
	通信費	70,000	27,030	部会誌発送等
	交通費	55,000	35,980	
	事業費	290,000	257,645	研究例会，ものづくり競技会，HP維持・更新
	税金分	20,000	10,099	講師謝金の源泉徴収分
	予備費	15,248	0	
	基金へ	0	821,571	
	計	745,248	821,571	

差引残高　0

(2)基金

2,524,466

(内訳)	前年度繰越金	2,067,303
	利子	18
	夏期セミナー余剰金	143,932
	18 年度差引残高	313,213

私ども監事は，被服構成学部会の会計監査を行った結果，上記事項に相違ないことを認めます．

平成 19 年 3 月 30 日

監事　（金谷喜子）

監事　（高部啓子）

平成 19 年度　被服構成学部会予算

(1) 部会会計

費　　目		19 年度予算	18 年度予算	増　減
収入	部会費徴収	375,000	400,000	−25,000
	その他の収入	0	0	0
	基金より	720,000	345,248	374,752
	前年度繰越金	0	0	0
	計	1,095,000	745,248	349,752
支出	総会運営費	100,000	100,000	0
	部会誌発行費	110,000	130,000	−20,000
	人件費	50,000	10,000	40,000
	会議費	70,000	40,000	30,000
	庶務費	60,000	15,000	45,000
	通信費	60,000	70,000	−10,000
	交通費	150,000	55,000	95,000
	事業費	465,000	290,000	175,000
	税金分	20,000	20,000	0
	予備費	10,000	15,248	−5,248
	基金へ	0	0	0
	計	1,095,000	745,248	349,752

(2)基金

	現在高	支出	残高
活動基金	2,524,446	720,000	1,804,466

永井房子先生のご逝去を悼む

平成 12･13 年度の被服構成学部会長を勤められた永井房子先生(相模女子大学名誉教授)が，平成 19 年 5 月 24 日にご病気のため，ご逝去されました．謹んで哀悼の意を表しますとともに会員の皆様にお知らせ申し上げます．

永井先生は，長く被服構成学部会のために尽力されました．平成 6 年度には夏期セミナー（会場：オンワード樫山総合研究所，横浜）の実行委員長を，平成 10･11 年度には林隆子部会長の元で副部会長を勤められています．副部会長の時には，被服構成学部会の第 1 回海外研修旅行の実行委員長もされました．

私が，永井先生に初めてお目にかかったのは，日本家政学会の被服構成学研究委員会が被服構成学部会に移行した頃のことです．1980 年と 1981 年に祖父江茂登子部会長の元で，被服構成学部会の第 1 回と第 2 回の夏期セミナーが，埼玉県比企郡嵐山町の国立婦人会館において 2 泊 3 日で行われました．たぶん，第 2 回の夏期セミナーで寝食を共にした 3 日間の中でのことだと思いますが，永井先生から楽しいお話をたくさん伺った記憶があります．お仕事と子育てについてのご苦労話も面白い思い出としてお話くださいましたので，セミナーの内容だけでなく仕事と子育ての両立や効率よく家事をする方法についても勉強をさせていただいたのでした．明るくおしゃれな先生の雰囲気は常に変わることなく，すてきな先生でした．

ご研究としては，和裁の裁縫技術を科学的に解明しようとする研究を中心に，実験を重ねておられました．その成果は 1994 年に「縫製における要素技術の科学的解明」というタイトルで信州大学から博士の学位を授与されています．

謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます．

（猪又美栄子）

お　知　ら　せ

1. 会費納入について

平成 20 年度の被服構成学部会費 2500 円は，5 月中に下記郵便払込口座にご送金くださるよう，お願い申し上げます．また、過年度未納の方には別紙にてお知らせいたしましたので，併せてご送金ください．

郵便払い込み口座　００９５０－１－８６６３９　日本家政学会被服構成学部会

なお，会費に関するお問い合わせは，下記にお願い致します．

〒543-0073　大阪市天王寺生玉寺町 7-72
大阪夕陽丘学園短期大学　ファッション表現学科　　林　仁美　宛
TEL　　０６－６７７１－５１８３（代表）
FAX　　０６－６７７０－２８８８（代表）
E-mail　　hayasi@oyg.ac.jp

2. 入退会，住所変更等について

お届け，お問合せは下記までお願いいたします．

〒658-0001　神戸市東灘区森北町 6-2-23
甲南女子大学　人間科学部　生活環境学科　　森　由紀　宛
TEL　　０７８－４１３－３００４（ダイレクトイン）
FAX　　０７８－４１３－３００４（ダイレクトイン）
E-mail　　moriyuki@konan-wu.ac.jp

※　なお，退会届につきましては（社）日本家政学会の退会手続きとは別処理になっていますので，部会への手続きも併せてしていただきますようお願いいたします．

3. E-mail アドレスについて

E-mail アドレスの登録にご協力いただきありがとうございます．アドレスをお持ちの方でまだ登録いただいていない方は，平成 20 年度会費納入の際に振り込み用紙の通信欄にご記入いただければ幸いです．またアドレスの変更がある場合には，なるべくすみやかにお知らせくださいますようよろしくお願い申し上げます．

4. 平成 19 年度新入会員

阿部栄子（大妻女子大学），　牟田緑（東京田中短期大学），　藤田恵子（東京家政学院短期大学），
山本泉（武庫川女子大学）

ご　案　内

平成 20 年度被服構成学部会総会並びに夏期セミナー
工業製品としての衣服
―先端研究からアパレルの現場まで―

期 日：　2008 年 8 月 25 日（月），26 日（火）

会 場：　日本女子大学　新泉山館国際交流センター

〒112-8681　東京都文京区目白台 2 丁目 8 番 1 号

プログラム

	8 月 25 日（月）
12:30～	受付開始
13:00～13:05	開会の辞
	部会長挨拶
13:05～14:35	基調講演 1　「グローバル視点から見たアパレル企業動向」 エコテックジャパン株式会社 代表取締役社長　近藤繁樹
14:35～14:55	休憩
14:55～16:25	基調講演 2　「かたち・動き・変形を再現するデジタルヒューマンモデル」 産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター　持丸正明
16:30～17:00	平成 20 年度総会
17:00～17:25	「30 年を振り返って」
17:45～19:30	懇親会
	8 月 26 日（火）
	パネルディスカッション 「アパレル現場のサイズとデザイン」 コーディネーター　日本女子大　大塚美智子
9:30～ 9:45	パネリスト　1.　東京家政学院大　川上　梅
9:45～10:15	2.（株）オンワード樫山　川島寿子
10:15～10:45	3.（株）ユニクロ　小瀧裕美子
10:45～11:15	4.　実践女子大　高部啓子
11:15～11:25	休憩
11:25～12:00	討論
14:30～15:30	見学　「産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター」

※部会員には追って詳細をご案内申し上げます。

連絡先　〒194-0292　東京都町田市相原町 2600 番地

東京家政学院大学家政学部　川上　梅

E-mail　kawakami@kasei-gakuin.ac.jp　TEL 042-782-7864

社団法人日本家政学会被服構成学部会　会則

第1条（名　　称）　本会は，社団法人日本家政学会被服構成学部会と称する．

第2条（目　　的）　本会は，会員相互の研究に関する連絡及び協力をはかり，被服構成学に関する教育・研究を促進することを目的とする．

第3条（事　　業）　本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う．

1　総会を開催する．

2　被服構成学に関する研究・討議・講演などを行う．

3　部会誌を発行する．

4　その他の必要な事業を行う．

第4条（会　　員）　本会の会員は，次のとおりとする．

1　正会員　被服構成学及びこれに関係する分野を研究する社団法人日本家政学会会員で，本部会の目的に賛同して入会した個人．

2　名誉会員　元部会長，または，特に部会の発展に寄与した会員で，70歳を越えた場合に，運営委員会の議決をもって推薦された者．

第5条（入　　会）　本会に入会を希望する者は，所定の入会申込書を部会長に提出し，運営委員会の承認を得るものとする．

第6条（退　　会）　会員が退会をしようとするときは，その旨を部会長に届け出るものとする．
この場合，既納の会費は返却しない．

第7条（役　　員）　本会に次の役員をおく．

部会長　1名
副部会長　2名
運営委員　若干名
監　　事　2名

第8条（役員の選任）　役員の選任は，次のとおりとする．

1　部会長および監事は，運営委員会がこれを推薦し，総会で選任する．

2　副部会長及び運営委員は，部会長がこれを推薦し，会員に報告する．

第9条（役員の任期）　1　役員の任期は2年とし，再任を妨げない．

2　役員の再任については，申し合わせを別に定める．

第10条（役員の職務）　役員の職務は次のとおりとする．

1　部会長は部会を代表し，会務を統轄する．

2　副部会長は部会長を補佐し，必要な場合には部会長の職務を代行する．

3　運営委員会は本会の業務を運営する．

4　監事は本会の会計監査を行う．

第11条 (会　　計)　本会の会計は次のとおりとする．

1　経費は正会員の会費，その他をもってまかなう．

2　会計年度は，毎年4月1日に始まり，翌年3月末日に終了する．

以上

附則

1　この会則の改正は，総会の議決による．

2　施行に関する内規は別に定めることができる．

3　この会則の施行は昭和 54 年 10 月 8 日からとする．

4　この会則の一部改正の施行は昭和 59 年 8 月 3 日からとする．

5　この会則の一部改正の施行は昭和 63 年 8 月 1 日からとする．

6　社団法人日本家政学会部会規程に基づき，平成 15 年 8 月 27 日から被服構成学部会会則を廃止し，社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする．

7　この規約の施行は平成 15 年 8 月 27 日からとする．

8　社団法人日本家政学会部会規程に基づき，平成 18 年 8 月 22 日から被服構成学部会規約を廃止し，社団法人日本家政学会被服構成学部会会則とする．

9　この会則の施行は平成 18 年 8 月 22 日からとする．

社団法人日本家政学会被服構成学部会　申し合わせ

1　運営委員会　　運営委員会は，部会長，副部会長，運営委員，監事で構成する．

2　役員の任期　　⑴　規約第 9 条に従って部会長の任期は 2 年とし，再任を妨げない．ただし，継続して 3 期はつとめられない．

⑵　運営委員の任期はできるだけ 2 期 4 年間とし，その交代は半数ずつ交互に行うことが望ましい．期間をあけての再任は，これを妨げない．

3　運営委員の選任　　運営委員の選任にあたっては，できるだけ部会員が在住する広範な地区から選ぶように配慮する．

4　事務局幹事及び編集幹事

⑴ 必要に応じて事務局幹事及び編集幹事をおくことができる．

⑵ 事務局幹事及び編集幹事は若干名とし，部会長がこれを指名する．

⑶ 事務局幹事及び編集幹事は役員会に陪席することができるが，議決権は持たない．

5　事　務　局　　事務局は，原則として部会長のもとにおく．

附則

この申し合わせは，社団法人日本家政学会被服構成学部会規約に基づくもので，改正にあたっては，運営委員会の議を経て，総会で承認する．

1　この申し合わせは，平成 15 年 8 月 27 日から施行する．

2　この会則の一部改正の施行は，平成 18 年 3 月 31 日からとする．

平成 18・19 年度役員

部会長	猪又美栄子	昭和女子大学
副部会長	泉　加代子	京都女子大学
	雲田　直子	東京家政大学
運営委員		
（庶務）	田中　百子	相模女子大学
	千葉　桂子	福島大学
	森　　由紀	甲南女子大学
（会計）	布施谷節子	和洋女子大学
	呑山委佐子	大妻女子大学
	服部由美子	福井大学
（企画）	佐藤眞知子	文化女子大学
	岡部　和代	京都女子大学
	原田　妙子	名古屋女子大学
	増田　智恵	三重大学
（広報）	大塚美智子	日本女子大学
	鈴木　明子	広島大学大学院
	鳴海多恵子	東京学芸大学
	林　　仁美	大阪夕陽丘学園短期大学
（編集）	川上　　梅	東京家政学院大学
	川端　博子	埼玉大学
	山本　高美	和洋女子大学
	別府　美雪	共立女子大学（非）
（監事）	高部　啓子	実践女子大学
	金谷　喜子	大妻女子大学

事務局　〒154-8533　東京都世田谷区太子堂 1-7
昭和女子大学　生活環境学科
TEL　03-3411-4364
FAX　03-3411-6792
E-mail : inomata@swu.ac.jp

平成 20・21 年度役員

部会長	泉　加代子	京都女子大学
副部会長	布施谷節子	和洋女子大学
	岡部　和代	京都女子大学短期大学部
運営委員		
（庶務）	森　　由紀	甲南女子大学
	千葉　桂子	福島大学
	川上　　梅	東京家政学院大学
（会計）	林　　仁美	大阪夕陽丘学園短期大学
	植竹　桃子	東京家政学院短期大学
	服部由美子	福井大学
（企画）	鳴海多恵子	東京学芸大学
	渡部　旬子	文化女子大学
	片瀬眞由美	金城学院大学
	森下あおい	滋賀県立大学
（広報）	大塚美智子	日本女子大学
	鈴木　明子	広島大学大学院
	小田巻淑子	東京田中短期大学
	十一　玲子	神戸女子大学
（編集）	川端　博子	埼玉大学
	別府　美雪	共立女子大学（非）
	石垣　理子	昭和女子大学
＜30 周年記念特集号立案＞		
	猪又美栄子	昭和女子大学
	雲田　直子	東京家政大学
（監事）	高部　啓子	実践女子大学
	冨田　明美	椙山女学園大学

事務局　〒605-8501　京都市東山区今熊野北日吉町 35
京都女子大学　家政学部　生活造形学科
TEL　075-531-7166
FAX　075-531-7166
E-mail : izumik@kyoto-wu.ac.jp

（社）日本家政学会被服構成学部会入会申込書

<table>
<tr><td>申込年月日</td><td colspan="4">年　　月　　日</td><td colspan="2">受付年月日　　年　　月　　日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ローマ字
氏名</td><td colspan="4"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="4">氏</td><td colspan="2">名</td></tr>
<tr><td colspan="5">西暦　19　　年生</td><td>性別</td><td>男　女　（どちらかを〇で囲む）</td></tr>
<tr><td>家政学会所属支部</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">自宅住所</td><td colspan="6">〒（　　―　　）</td></tr>
<tr><td>TEL</td><td colspan="2"></td><td>FAX</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>E－mailアドレス</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">勤務先・職名
及び所在地</td><td>勤務先</td><td colspan="2"></td><td>職名</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">〒（　　―　　）</td></tr>
<tr><td>TEL</td><td colspan="2"></td><td>FAX</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>E－mailアドレス</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>専門分野</td><td colspan="6">＜研究分野＞
＜担当授業科目＞</td></tr>
<tr><td>最終学歴</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>学位</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>部会誌送付先</td><td colspan="6">自宅・勤務先　（どちらかを〇で囲む）</td></tr>
</table>

太線枠内は必ず記入してください．細線枠内は差支えない範囲でお書きください．

部会費は「お知らせ」ページの口座にご送金ください．

- 個人情報保護には充分に注意をいたします．
- 部会申込書は被服構成学部会ホームページからダウンロードしてお使いいただくこともできます．
  URL：http://h-kohsei.com

編集後記

今年度の私は，ちょっと疲れてしまいゆっくりモードで研究活動を行っておりました．第 29 号の部会誌を編集するにあたり，多くの原稿を前に先生方のご活躍をすばらしいなと感じているところです．ICT（Information and Communication Technology）の発達により，編集作業も容易になり，昨年度から経費削減のためにも印刷会社による校正をやめました．そのかわり，部会長，副部会長，編集委員により，インターネット上でやり取りを行い，そのまま印刷に回すようにしました．

コンピュータの世界は，どこまで私たちの生活を変えていくのでしょうか．（山本）

29 号をお届けいたします．編集作業に関しては初めから分担したため，昨年度よりはスムーズに進んだと思っています．原稿執筆などご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます．

年末に一念発起して洋服の整理をしたところ，なんとも着ない服の多さに自分で驚きました．ユニクロは 2006 年 9 月から毎年 3 月と 9 月に全商品リサイクルとして，着なくなったユニクロ商品の回収を始めています．これからはリデュースの考えで不要なものを買わないよう，また環境のことを考えた“捨てる技術”を身につけたいと思っています．（別府）

平成 20 年 3 月 31 日・発行

発行：（社）日本家政学会 被服構成学部会

印刷：（株）東京アート印刷所
TEL：03‐5608‐2581